

令和元年度 森林環境譲与税の使途事例 (森林経営管理制度に基づく意向調査の実施)

- ▶ 尾鷲市では、急峻な山岳地帯であり、やせ地である不利な条件を逆手に取り高品質な「尾鷲ヒノキ」を生産するとともに、生物多様性にも配慮した森林管理が認められ「日本農業遺産」にも登録されています。しかしながら、この地域においても放置林が増加していることから、森林環境譲与税の財源と森林経営管理制度を活用し、公益的機能の保全に努め災害から地域を守るとともに「尾鷲ヒノキ林業」の伝統を後世に引継ぐ為、森林整備を推進する方針である。
- ▶ 令和元年度においては、以下の取組により、23.04haの意向調査を実施した。
 - 境界の明確化を進める為、意向調査対象地域における過去10年間の施業履歴を抽出し、測量データを基に林地台帳に追記した。
 - 市内の私有林人工林23.04ha（9名）について意向調査を実施し、意向を示した方が18.99ha（7名）・自分で管理する等が4.05ha（2名）となり、令和2年度では、対象地である18.99haの境界の明確事業と集積計画を実施する予定である。

□ 事業内容

1 令和元年度 森林経営管理事業 事前調査業務委託

- 意向調査業務の円滑化及び境界の明確化業務を行う上で、意向調査対象地に関係する過去10年の施業履歴・測量データの抽出作業を実施した。

【事業費】165千円（全額譲与税）

【実績】14.81ha（9箇所）林地台帳に追記

2 森林所有者への意向調査の実施

- 市内の私有林23.04ha（9名）の森林所有者に対し、今後の森林経営について意向の調査を行った。

【事業費】112千円（全額譲与税）

【実績】意向調査面積23.04ha

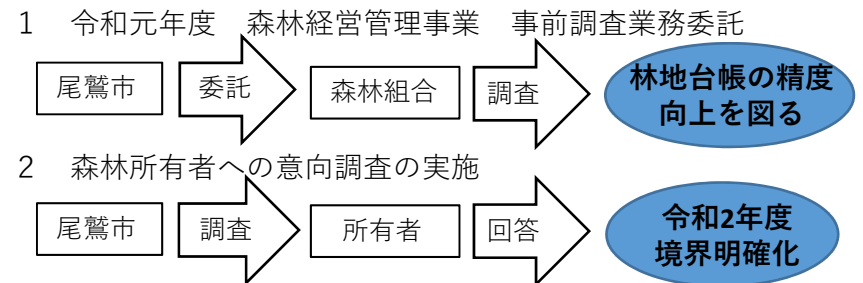


（事業1：境界確認の様子）



（事業2：森林の現況調査）

□ 事業スキーム



□ 工夫・留意した点

- 1の事業においては、成果品である測量野帳へGPS情報を追加することにより、林地台帳の精度向上を図るようにした。
- 2の事業においては、意向調査行う前段階として、所有山林の確認作業を所有者に対し事前に行う事で、意向調査の回答率を上げる試みをおこなった。

□ 基礎データ

①令和元年度譲与額	13,380千円
②私有林人工林面積（※1）	9,701.56ha
③林野率（※2）	92%
④人口（※3）	17,974人
⑤林業就業者数（※4）	41人

※1：「平成30年度版 三重県森林・林業統計書」より、※2：「2015農林業センサス」より、
※3：「平成30年度版 尾鷲市統計書」より、※4：「H27年 国勢調査」より